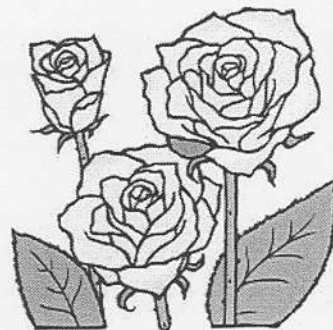


碧水だより

平成17年10月25日 第 8 号
阿蘇市立碧水小学校 羽 山

めざす子ども像
仲よくする子、かしこい子、たくましく生きる子



家庭教育講演会

十月十八日午後七時よりPTA家庭教育講演会が実施されました。講師に熊本学園大学教授の宮里六郎先生をお迎えし、「いい子でなくても大好きといえますか」と題して講演していただきました。

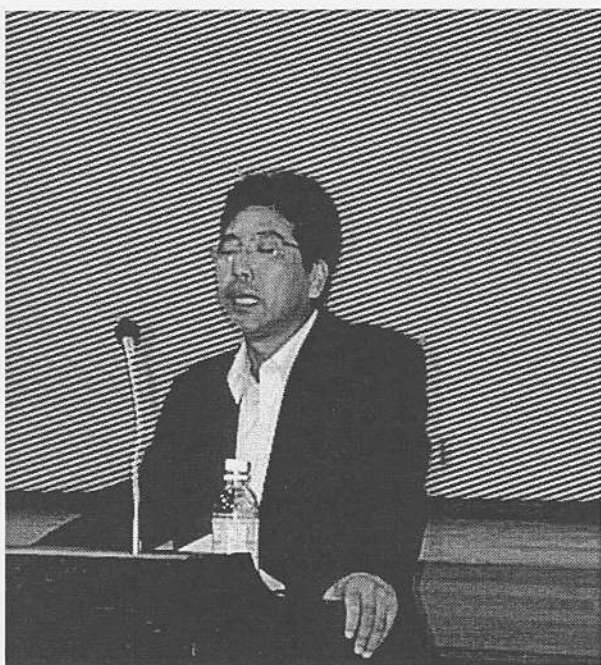
★講演内容★

「荒れる子」「キレル子」の心の叫び

四、五歳児の極端な荒れる子やキレル子の事例をあげながら、大人から見た価値観と荒れる子どもの心の内側をしっかりと分析され、その原因や背景についてわかりやすく話をしてくださいました。

ご自身も三人の子どもの父として、その経験を交えられてのお話しに思わず引き込まれ、二時間もあっという間に過ぎてしまいました。

参加者八十名、碧水小学校保護者以外も約三十名の参加がありました。



四、五歳児のすさまじいまでの荒れ方、「出ていけ、包丁でぶっ殺してやる」等の暴言、「小さな天使」どころかまるで「小さなやくざ」と言ったがふさわしい状況です。しかしその反面べったりと甘えてくる子どもたちがいます。

大きな特徴として「荒れ」「キレ」の裏に「甘え」が隠されています。

甘やかしてわがままに育てたから荒れるのではなく、たっぷりと甘えた経験がないから荒れることが多いようです。

甘えたい気持ちを素直に表現できない子どもたちが荒れているといえます。

いい子でなくても好き？

子どもたちは「ぼくはいい子ではないけれどそれでもぼくのこと好き？」と大人達に問うています。

そして子どもたちは「いい子じゃなくても大好きだよ」と言っているのです。

「甘やかし」（過保護）はいけません、安心感を充電させるとも大切なことです。

(左・・・コラム)

自尊心を育てる

「荒れ」たり「キレ」たりす

「みんな持っているから」と言われると弱いところがある。「みんな持っているのに買ってやらないとかわいそうだ」と思って安易に買いあたえる。そういうのを「甘やかし」といいます。

「甘えさせ」とは、たとえば子どもがつらいとき、悲しいとき、不安なときに、母親の膝にのぼって抱きしめてもらう。そのことで安心して、また親から離れて遊びに出かける。そういう安心感を充電できる「甘え」なのです。

「甘やかし」は親が自分の安心のためにするが、「甘えさせ」は子どもを安心させてやるためにするものである。

「甘やかし」はアメとムチで子どもを操作することにつながり、「甘えさせ」は「やさしさときびしさ」で子どもを自立させることにつながると言います。

高垣忠一郎著より

宮里さんちの子育て方針

六人兄弟の末っ子として育ちましたが、私を除いて皆中学卒業です。

中卒を否定することは自分の兄弟を否定することであり、兄や姉たちの生き様を否定することになると考えています。

こんな自分の生い立ちが自分の子育て方針に影響しています。

学歴が高くて有名大学を出ていても人間的な魅力とは関係ありません。

だから「高校ぐらい出ておかない」という発言には抵抗を感じます。

教師へのメッセージ

この話を通じて、私たち教師も大変考えさせられました。

強制や指示、指導だけでは限界があるということです。

今までの教師はその手法に頼ってきました。

しかしそれだけでは通用しなくなっています。

「自分のことを無条件で受け入れてくれる安心感が絶対に必要である」ということは児童と教師の関係にこそ最も大切なことなのです。

「いい子でなくても大好きといえますか」というのはそのような教師自身へのメッセージでもあると感じました。

11月行事予定表

日	曜	校 内 の 行 事	給食
1	火	歯と口の健康研究発表会(長陽西部小)	○
2	水	校内研修	○
3	木	文化の日	×
4	金	学年社会見学	○
5	土	阿蘇郡市学童駅伝大会(あびか)	×
6	日		×
7	月	就学時健康診断	○
8	火		○
9	水	校内研修	○
10	木		○
11	金	郡市教研社会科授業研究会	○
12	土		×
13	日	図書館まつり	×
14	月		○
15	火		○
16	水	職員会議	○
17	木		○
18	金	学習発表会	○
19	土	学童ミニサッカー大会(～20日)	×
20	日	県PTA研究大会(芦北)	×
21	月		○
22	火	音楽集会	○
23	水	勤労感謝の日	×
24	木		○
25	金	中部小学校書写展	○
26	土		×
27	日	阿蘇市PTA研修会	×
28	月		○
29	火		○
30	水	校内研修	○

12月の予定 1日 人権教育授業研究会 8日 授業参観
16日 人権集会 22日 終業式

五年生の体験学習



一学期の五月二十六日に田植えをした稲が見事に成長しました。北黒川の中島麻実さん方の田んぼを御協力いただきました。五月の田植えでは田んぼの半分を全員で泥だらけになりながら手植えをし、慣れない手つき

で植えた稲も見事に収穫の時期を迎えました。十月十七日の稲刈りではたくさんの保護者のご協力をいただきました。

絶好の秋晴れに恵まれ、実った稲の株を鎌で一つ一つ刈り取って、最後はコンバインにかけるという作業でした。今年は天候にも恵まれ株が大きく育ち手で持てないほどでした。

作業の合間や終わりには落ち穂拾いもみんなで行いました。大変な中にも楽しい時間を過ごすことが出来ました。

午後からは濱野和馬さん方の畑でサツマイモ掘りの体験もさせていただきました。たいへんありがとうございました。

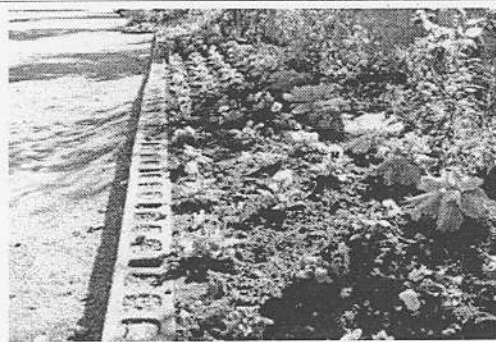
きれいにになりました



花壇がきれいになりました。人権の花の指定を受け花いっぱい学校環境づくりの努力をしています。

しかし今年の夏の水不足と暑

さで春に植えた花は一応花を咲かせましたが、きれいに長く咲かせることはできませんでした。秋を迎えて花壇を整備し少しでも花いっぱい学校にしようと頑張っています。岩下道子先生のご協力で自宅で育てられた葉ボタンを四十本いただきました。パンジーを百五十本植えて花壇を整備しました。きつとこれから春にかけて立派な花を咲かせてくれるものと思います。



最近トイレのスリッパが良くなりました

豊かな心ははきものをそろえることで育つという言葉があります。

自分だけ良ければよい、散らかっていても何とも思わない、ということとは心が落ち着いていない状態です。

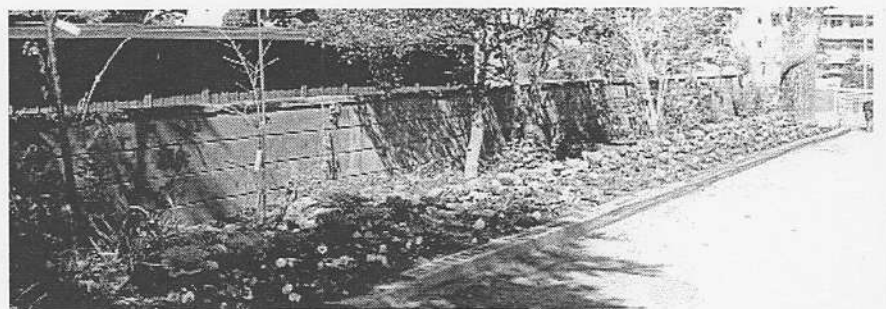
次の人のことを考えてそろえておく、周りの人への心づかいや思いやりが、目に見える形で現れます。

たかがスリッパされどスリッパです。

学校では一つのことに徹底して取り組もうという視点からトイレのスリッパ並べを徹底しています。

家でも靴やはきものをそろえる習慣ができていくのでしょうか。

そのような子どもは心が落ち着き、集中力も育ってきます。



十月七日にあった三・四年生の鍛錬遠足に同行しました。学校から国立阿蘇青年の家までの往復するコースです。

途中の竹原の農道にはコスモスが道の両側に植えられ、きれいな花がたくさん咲いていました。

しかし残念なことにみんなが歩いた後には、花びらが散乱し、花首からもぎ取られたコスモスの花がたくさん落ちていました。

私たちの小さいときも道ばたの草や木を折ったりちぎったりして遊んだ経験があり、自然とふれあうことである意味仕方がないかなとも思いましたが、あまりにも目に余る状態に何度か注意しました。

きれいに花を咲かせるために手入れをし、苦勞された人がいて、満開を迎えている花を大切にすることも育てたいと思います。